

経済・金融 フラッシュ

中国経済:5/1 発表の製造業PMI ~2ヵ月連続の改善も、景気は引き続き正念場

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

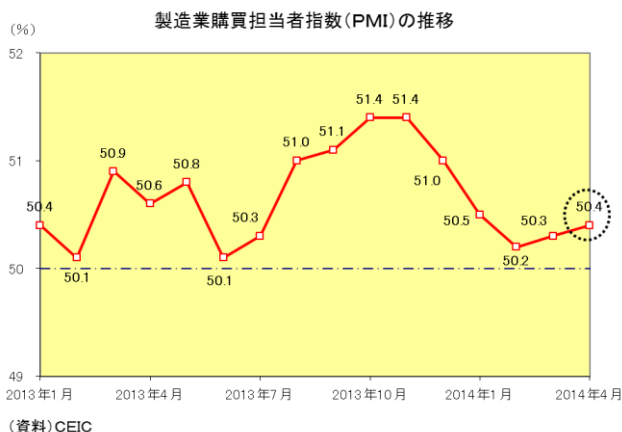
- 4月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）は50.4%と前月比0.1%ポイント上昇、小幅ながら2ヵ月連続の改善で、2014年2月の50.2%を底とした緩やかな回復が継続した。
- 今回改善した主因は新規受注指数で、将来の生産増に結びつきやすいだけに久々の好材料だが、新規輸出受注は悪化して50%を割り込んでおり、輸出増に対する期待は後退する結果となった。
- 今後は、高水準にある予想指数に鞘寄せする形で新規受注・生産が上向くのか、それとも期待が失望に転じて予想指数が急落してしまうのか、景気は引き続き正念場にあると思われる。

【 総合指数は2ヵ月連続の小幅改善 】

5月1日（木）、中国の国家統計局サービス業調査センターと物流購買連合会は2014年4月の製造業購買担当者指数（PMI、季節調整済）を発表した。それによると総合指数は50.4%で前月と比べて0.1%ポイント上昇した。拡張・収縮の分岐点となる50%を19ヵ月連続で上回っており、また小幅ながらも2ヵ月連続で改善したことから、2014年2月の50.2%をボトムとした弱々しい回復が続いている（図表-1）。

図表-2に示した過去の総合指数の動きを見ると、季節調整後とはいえ調整の癖なのか5~7月には悪化することが多い。調査ユニバースが820社から3000社へ拡大された2013年1月以降はそれまでのような顕著な悪化は見られないが、昨年6月にも一時的に大幅悪化している。このような統計の技術的な特徴を考えると、当面はポジティブなサプライズが起り難い状況といえそうだ。

(図表-1)



(図表-2)

【製造業PMIの前月比(当月値-前月値)】

月	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
1	▲ 0.8	▲ 1.0	0.2	▲ 0.2	▲ 0.5
2	▲ 3.8	▲ 0.7	0.5	▲ 0.3	▲ 0.3
3	3.1	1.2	2.1	0.8	0.1
4	0.6	▲ 0.5	0.2	▲ 0.3	0.1
5	▲ 1.8	▲ 0.9	▲ 2.9	0.2	
6	▲ 1.8	▲ 1.1	▲ 0.2	▲ 0.7	
7	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 0.1	0.2	
8	0.5	0.2	▲ 0.9	0.7	
9	2.1	0.3	0.6	0.1	
10	0.9	▲ 0.8	0.4	0.3	
11	0.5	▲ 1.4	0.4	0.0	
12	▲ 1.3	1.3	0.0	▲ 0.4	

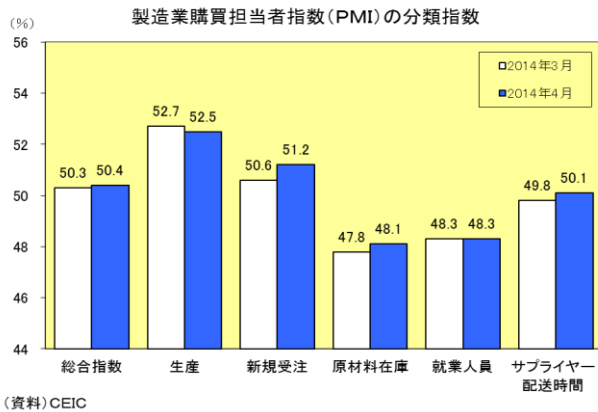
(資料)CEICのデータを元に作成

(注)2013年1月に調査ユニバースが820社から3000社へ拡大

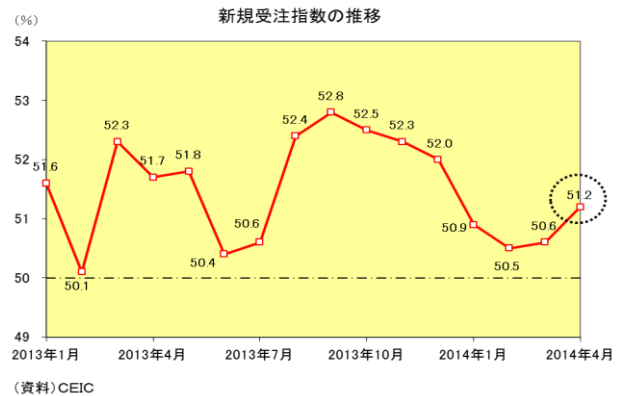
【 新規受注の改善が主因 】

一方、総合指数を構成する5つの分類指数を見ると(図表-3)、加重割合が3割と大きい新規受注指数が前月比0.6%ポイント改善したことが主因で、新規受注の改善は将来の生産増に結びつきやすいだけに久々の好材料である(図表-4)。但し、生産指数が同0.2%ポイント悪化、就業人員指数も48.3%で横ばいと、足元の景気には依然力強さが欠けることも確認する結果となった。

(図表-3)



(図表-4)

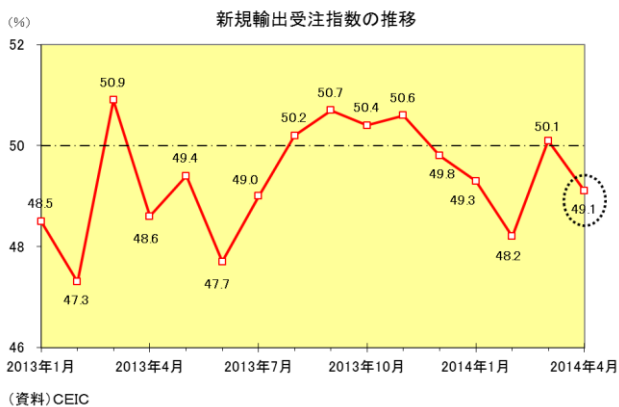


【 予想指数は高水準維持も、引き続き正念場 】

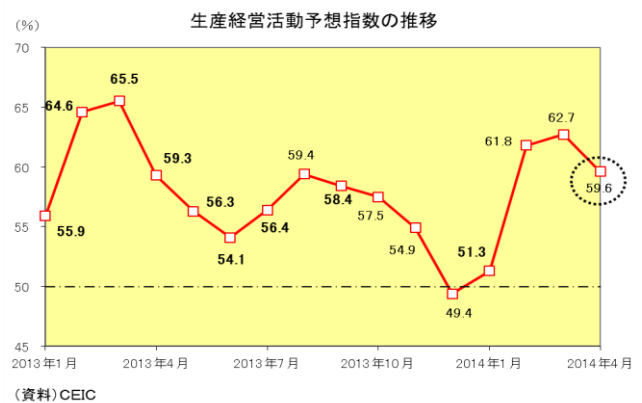
新規受注指数は改善したものの、輸出の先行指標として注目される新規輸出受注指数は49.1%と前月に比べて1.0%ポイント悪化、再び拡張・収縮の分岐点となる50%を下回った(図表-5)。中国の通貨(人民元、対米国ドル)が下落した割に新規輸出受注の動きは冴えない。また、生産経営活動予想指数(今後3ヵ月以内の生産経営活動に対する楽観度を示す)は59.6%と前月より3.1%ポイント悪化、高水準を維持したものの先行きに対する楽観度には陰りも見られる(図表-6)。

今後は、高水準にある予想指数に鞆寄せする形で新規受注や生産が上向くのか、それとも期待が失望に転じて予想指数が急落してしまうのか、景気は引き続き正念場にあると思われる。

(図表-5)



(図表-6)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。